

# 令和3年度第1回さいたま市いじめのないまちづくりネットワーク 議事録

1 日 時 令和3年7月16日(金) 10時00分～11時30分

2 会 場 ときわ会館 5階 501会議室

3 出席委員 沢崎 俊之 神尾 尊礼 岡野 育広 久世 晴雅 根本 淑枝  
(敬称略) 橋本 哲 村山 和弘 品田 匡央 須藤 明 森田 裕  
若松 隆 豊島 登 田邊 泰 長谷場明博 直井 将成  
越智 弘 瀬戸口憲二 高崎 修 辻村 佳久 北里 大介

4 欠席委員 登坂 英明 松本 敏雄 望月 三之 八島 健 竹越 利之  
(敬称略) 高橋 篤

5 事務局 金子 博志 子ども未来局長  
加藤 治 子ども育成部長  
栗原 ゆり 青少年育成課長  
宮澤 裕昌 青少年育成課課長補佐兼係長  
金子めぐみ 青少年育成課主査  
武井 悟 青少年育成課主査  
野間 郁花 青少年育成課主事  
浅見 正史 指導2課参事兼課長  
中澤 佑介 指導2課主任指導主事  
内野多美子 総合教育相談室長  
松本 和紀 総合教育相談室主任指導主事

## 6 議 事

### 1 開会・あいさつ

資料確認

①会議資料 次第  
資料

- (1-1) 令和3年度青少年育成事業の取組
  - (1-2) 令和2年度児童いじめ相談受付件数
  - (2-1) 市立学校のいじめの現状について
  - (2-2) 市立学校のいじめ防止等に向けた取組について
  - (2-3) さいたま市の教育相談体制について
- (参考資料)

さいたま市いじめ防止対策推進条例

さいたま市いじめ防止基本方針

さいたま市いじめのないまちづくりネットワーク規則

さいたま市いじめのないまちづくりネットワーク運営要綱

②青少年育成さいたま市民会議広報紙「はばたき」31・32号

③令和2年度「青少年の主張大会」記録集

④久世委員から提供された資料

⑤いじめ防止啓発用マスクケース、クリアファイル

⑥口座振替依頼書等

## 2 委員の委嘱

## 3 委員自己紹介

## 4 委員長・副委員長選出

委員の互選により、委員長として 沢崎俊之 委員、副会長として 久世晴雅 委員が選出された。

## 5 議題

(1) いじめ防止のためのさいたま市の取組について

### ①「いじめ防止対策推進条例」「いじめ防止基本方針」及び本ネットワークの役割について

○参考資料「さいたま市いじめ防止対策推進条例」「さいたま市いじめ防止基本方針」により、さいたま市のいじめ防止の取組の全体的なこと及び本ネットワークの役割について青少年育成課から説明

<質疑・応答>

特になし。

### ②市長部局の取組について

○資料1-1により、青少年育成課から説明

・青少年健全育成事業の取組について青少年育成課から説明。

○資料1-2により、令和2年度児童いじめ相談受付件数について北里委員から説明。

<質疑・応答>

(沢崎委員長)

説明のあった受付件数は、電話相談か。

(北里委員)

電話相談及び来所による相談の件数である。

(沢崎委員長)

いじめの相談件数は少ないが、他の相談が増えているということか。

(北里委員)

件数は少ないが、いじめ以外の相談もあるということだ。

### ③教育委員会の取組について

○資料 2-1、2-2 により、指導 2 課長から説明

- ・いじめの認知件数について報告した。また、いじめ防止の取組として、昨年度実施した「さいたま市子ども会議」、「いじめ防止 WEB シンポジウム」について報告した。
- ・今年の「いじめ防止シンポジウム」は 8 月 30 日に市民会館おおみや及び各市立学校（オンライン）で開催を予定している。また、いじめの早期発見の取組、スクールロイヤーによる相談、予防教室等を実施している。

○資料 2-3 により、総合教育相談室長から説明

- ・さいたま市の教育相談体制について説明した。

### (2) 子どもの状況、各団体の取組について

(沢崎委員長)

委員の皆様から見た子どもの状況、いじめ防止の取組について紹介してほしい。はじめに学校での子どもの様子、取組について紹介してほしい。

(豊島委員)

自校の様子について話す。新型コロナウイルスの影響で何らかのストレスを抱えていると想像するが、私は、あまりそれを感じない。むしろ、できることに目を向けてがんばっている。昨年度、校外行事は例年通りには実施できなかったが、代替りの行事を工夫して実施したので、満足感があったようだ。今年度になり対応策を講じて自然の教室も実施している。

いじめ防止については、基本的に教育委員会の指示・指導のもと、アンケートを実施し、必要な児童と面談できるよう、時間を確保して 1 対 1 で話せる機会を作っている。

早期発見に関しては、保護者からの情報により対応を始めることが多い。十分に聞き取りを行い、指導している。単純に「ごめんなさい」「いいよ」で解決ではなく、じっくり観察を続け、本当に解消したのか見ている。

また、毎月、生徒指導委員会を開催し、小さな問題も取り上げて、組織的に対応している。発達に課題のある子どもが手を出してしまう事例では、ていねいな説明をしている。

(田邊委員)

今年度は、感染防止に気を配りながら、通常の行事を実施している。部活の大会では、保護者の参加もあり、子どものいい表情が見られた。

修学旅行は、6 月末から市内の各校で実施している。本校も、京都、奈良に行けてよかった。楽しかったと言っていた。消毒、部屋から出ないことなど気を使いながら過ごした。メンタルが不安定になりがちの子もいるので、学校生活の充実に全力をあげている。不安定な子には、学校総がかりでケアに当たっている。保健室、相談室、担任等が連携し、前向きに進むよう取り組んでいる。

また、コロナいじめが起きないように、各学校で高い意識で取り組んでいる。本校でも、日本赤十字の方による指導、学校だより、学級担任の話、学級活動、掲示物等による指導を行っている。陽性者も出ているが、今のところトラブルはない。

(長谷場委員)

ひまわり特別支援学校は、肢体不自由の特別支援学校である。知的障害をあわせもつ子どもいて、小学部、中学部、高等学校部合わせて43名が在籍している。いじめ防止については、小・中学校と同じように組織的に生徒指導部会、教育相談部会にて情報共有しながら取り組んでいる。いじめ防止強化月間、心を潤す4つの言葉等の取組を行っている。

児童生徒が少ない人数で、ほぼ職員と1対1なので、いじめ件数はここ数年0である。

障害があるからいじめはないとの先入観を待たないようにしている。

子どもが気持ちよく学校で過ごせるよう環境を整えている。

コロナ禍で、昨年度、様々な行事が中止になったが、今年度は、「学びを止めない」を合言葉にして、工夫・改善して取り組んでいる。

(沢崎委員長)

各学校で工夫していることがよく分かった。コロナで保護者・地域との関わりが難しくなった、そういう状況があったことについてお話を伺いたい。

(豊島委員)

なかなか地域の方を呼んだり地域の行事に参加したりができていない。学校と地域の連携ができなくなった。安全ネットワークや見守りでお世話になっている方が集まる会合も中止せざるをえない。そこでアンケート用紙を配付して気付いたことを書いていただいた。

数名から、子どもの元気がない、気になるトラブルがあった等の意見をいただいた。

保護者との関係では、昨年度授業参観もできなかったもので、今年度は、1学期のはじめと学年末だけでも何があっても対面で実施しようとしている。各学期末については、懇談会だけにして、映像で行事の様子を見ていただいたりしている。

(田邊委員)

地域の行事がなくなってしまった。本校としては、声がかかれば、なるべく参加したいと考えている。6月末に公民館から依頼されてボランティアに参加した。

昨年度、保護者が学校に来る機会もほとんどなかった。今年度は、授業参観も実施している。体育祭を学年ごとに実施したり、ホームページに写真を多く載せて見ていただけるように工夫したりしている。

(長谷場委員)

昨年度、運動会を中止したが、今年度は実施した。万一感染したら、すぐに命にかかわるので、保護者は各1名に限定し、今まで合同で行っていたのを小・中・高等学部ごとに実施した。また、ライブ配信により各家庭で見られるようにした。

夏祭り、サマーフェスティバルは、保護者1名のみ、学部ごとの制限で通常通り行う。

(沢崎委員長)

学校の取組がよく分かった。他の委員から子どもの状況、いじめ防止の情報をいただきたい。あまり時間がないが、どなたか、何かあればお話を伺いたい。

(村山委員)

今年で市は20周年だが、20年前私たちの協会は教育委員会の下で、メッセージも共有して、分かり合えていた。

教育長が冬休み前に命のメッセージを保護者に送り、小・中学校の校庭や体育館を使用禁

止しているのに、市長部局管轄の体育館・公園は借りられるということになった。

私達のところには、「少年団の活動を中止してほしい」と匿名の保護者からの問い合わせや苦情が来る。自分から指導者に言うと、子どもがいじめられるので、本部から言ってほしいと。

当協会は、日本スポーツ協会、県スポーツ協会のマニュアル通りに、自粛をお願いしていたが、中には、公共団体が施設を貸し出している例がある。県内の施設を東京都のスポーツ団体が使用しているということもある。

また、公園で遊んでいる子供に石を投げるという、いわゆるコロナ警察のことも聞く。事実はなかなか分からないが、学校、教育委員会と密にやっていきたい。

お願いしたいのは、関係団体との連携だ。連携が薄くなっている。

昭和40年代ごろ子どもだった指導者が、今では許されないようなことをやっていることもある。親をいじめ、子どものいじめにつながっていくことが心配だ。

(久世委員)

私たちは、地域のおじさんである。毎朝、校門まではとって登校の見守りをしている。大宮東中学校の学校評議員会に参加した。その後、授業参観をした。マスクをしていると顔が分からない。それでも、生徒によっては、飛んで来てあいさつをしてくれる。生徒と会話したい。地域のおじさんは強い。地域は子どもの顔を見ている。自宅待機から学校が再開されたときの子どもの笑顔が本当に素晴らしいと思った。

市民会議の会報「はばたき」を見てほしい。競泳の池江璃花子選手のことを書いたり、地域は何とか行事を行って子どもを参加させたいという願いを書いたりした。

また、「青少年の主張大会 記録集」これも見てほしい。9ページに「最後に、大人の人に言いたいです。・・・怒っている時こそ、アドバイス付きで話してください。そうすれば、もう少しだけ素直に聞ける気がします。」と、こんなことを書いてくれた。今回の主張作品には、コロナ差別的なことに触れたものもある。

もう一つ。評議員として学校からいろいろな報告があったが、「地域絆活動」のコピーを見てほしい。第二東中学校では、先生とPTAと一緒に見守る、「地域+学校+保護者=見守る絆」というポスターを作って、がんばっているのので、紹介した。

最後に、大宮東中学校では、特別支援学級の生徒が一番にあいさつをしてきた。次の日には、「きのうは、ありがとうございます」と言ってくれた。

子どもたちを見守ることが、いじめ防止につながっていくのではないかと思う。

(沢崎委員長)

貴重な御意見をいただいた。時間になったので、ここで終了とし、議長の任を解かせていただく。

## 6 その他

事務局から、いじめ防止の啓発品について、第2回いじめのないまちづくりネットワークの日時・会場について連絡をした。

## 7 閉会